

研究論文

基本語化を考慮したカタカナ外来語の学習と教材開発

— その振り返りと新たな開発に向けて —

Learning and Teaching Material Development for Katakana Loanwords

— *Feedback and Design* —

望月通子

MOCHIZUKI Michiko

A longitudinal study of *katakana* loanwords in newspapers and magazines has demonstrated an increasing use of *katakana* loanwords. The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL) has produced a list of paraphrases for *katakana* loanwords that are unintelligible or not yet fully established, though paraphrasing them with familiar Japanese is considered to be a deterrent against excessive uses of *katakana* loanwords.

However, the study confirms that some *katakana* loanwords have been accepted despite existing Japanese vocabulary, becoming a genuine part of basic Japanese vocabulary, and bridging gaps in the lexicon where Japanese words appear to be inadequate.

So far most teaching materials for foreign students have often focused on pronunciation differences and fluctuation in sound representations as well as meaning differences, and others in recent years have referred to vocabulary according to separate categories. But we should develop self-study exercises built-into teaching materials that focus on co-occurrences of concrete nouns as well as those of abstract nouns where both native Japanese words and loanwords co-occur.

The self-study materials for foreign students developed by the authors have laid stress on co-occurrences or collocations in compound loanwords. In order to learn abstract *katakana* loanword noun that have been recognized and accepted as basic Japanese vocabulary, we need a new kind of self-study textbooks for *katakana* loanwords with a rich variety of examples as well as exercises.

Key words

① *katakana* loanword ② academic Japanese ③ basic word ④ softening ⑤ textbook

1. はじめに

1.1 背景と目的

高度に専門化・情報化・グローバル化した社会では、これまで以上に言語弱者や情報弱者への配慮や対応が求められる。コミュニケーション不全という事態を招かないためには聞き手に優しい、わかりやすい日本語を使う必要がある。1991年に内閣告示・内閣訓令として出された「外来語の表記」にも外来語の氾濫の文言が再登場し、その後の国語審議会の答申(2000)でも定着が不十分な外来語は言い換えるという見解が示されている。国立国語研究所の『わかりやすく伝える外来語言い換え手引き』(2006)や、『病院の言葉をわかりやすく——工夫の提案』(2009)といった一連の刊行の動きは、こうした社会の要求を反映したものと言えるだろう。

外来語の言い換えでは、フランスが1975年にフラングレ(仏製英語)や英語の氾濫を規制するバ=ロリオル法を成立させたが、1994年に新たにトゥーボン法を成立させるなど、さらに規制を強化している。この影響で、戦後、外来語が増え続けていた日本においても、外来語の過剰使用を文化的後進性の現れとする意識が高まり、70年代後半には一時的に外来語の回避現象がみられた。しかし、その後、より規制を強化したフランスとは対照的に、80年代以降の日本では再び増加に転じている。国立国語研究所(2005)によると、雑誌の使用語彙の語種別比較では1956～1994年の約40年間に外来語は3.5倍に増加している。1994年に出版された雑誌における異なり頻度は33.8%という高比率であった。一方、新聞社説や演説における外来語使用については、橋本和佳(2004, 2010)の経年調査によると、S字曲線を描きながら増加・普及している。とくに1994～2002年には、平均5.0%の割合で安定的に漸増している。

石綿敏雄(1985)によれば、人々が外来語表現を使うのには7つの動機づけがあり、それらは新しい事物や考え方の表現、新しい感じの表現、今までのものと相違する表現、専門化時代の専門語、国際化時代の影響、婉曲表現、言語構造に由来するものなどである。

外来語には、既存語に「言い換え」ができる語とできない語がある。近年、その実態とその存在理由を探る研究が散見されるが、新奇性に加え、タブーや詳細を避ける「曖昧化」「婉曲化」「ソフト化」(金愛蘭 2006a, 2006b, 2011 など)や「自由さ」(宮田公治, 2007)が、外来語が重宝がられる大きな理由として指摘されている。外来語はこれまで周辺的な非基本的語彙として位置づけられてきたが、次第に日本語の語彙に欠けている隙間を埋める役割を担い、重要な一角を占めるようになってきている。こうした変化は金愛蘭(2011: 1-2)によれば3つの局面としてとらえることができる。

- (イ) 「外国語」から「外来語」へと借用され、定着する局面、
- (ロ) 日本語語彙の周辺に「非基本語」として存在し続ける局面、
- (ハ) 語彙の中心部に移行して「基本語化」とするという局面である。

従来の外来語研究の多くは前二者の(イ)と(ロ)の局面に焦点を当てたものであったが、第三の局面に注目し、特に 20 世紀の後半における基本語化現象の実態を明らかにしていく必要があるとして次のように指摘している。

なかでも、「抽象的な意味を表す外来語の基本語化」の記述と理論化は、本格的に取り組むべき重要な課題となる。というのも 20 世紀後半に基本語化した外来語には、生活の近代化という言葉外的な条件によってその使用が増えたと考えられる「テレビ」「ホテル」「ビル」「エンジン」「スキー」などの具体名詞と並んで、「タイプ」「システム」「バランス」「ケース」「トラブル」のような抽象的な意味を表す名詞が少なからず認められるからである。こうした抽象的な外来語の基本語化は、具体的な外来語と違って、文章・談話の骨組みを成す語群に外来語が進出することであり、また、その基本語化自体が気づかれにくいこともあって、日本語にとってより重要かつ深刻な意味をもっているからである。

本稿では、以上のような日本語の語彙における外来語使用の潮流を踏まえ、JSL 環境下で日本語を学ぶ外国人留学生の外来語学習における問題点を再考し、体系的に学ぶために必要な教材開発について考察することを目的に据える。

なお、本稿では、以下、外来語を「室町時代末期以降に日本語に借用された、漢語やサンسكريット語以外の語」と定義し、「カタカナ外来語」と呼ぶことにする。

1.2 構成

第 1 章では本稿の背景・目的・構成について述べる。次の第 2 章では、まず陣内正敬（2008）による日本語学習者の外来語意識調査について概観し、続いて筆者が実施した質的外来語意識調査を報告し、カタカナ文字やカタカナ外来語に対する中国語話者や韓国語話者の外来語意識について考察する。さらに、第 3 章では、外国人学習者が直面するカタカナ語やカタカナ外来語の学習上の困難点について考察する。第 4 章では、まず筆者らが開発した『日英対訳で学ぶ留学生のためのカタカナ語 1 —— コロケーションと合成語を究める ——』について、語彙の選択方法や開発上の工夫点について述べる。次いで、コース終了直後と 2 か月後に実施した事後テストの結果の比較と学習者からのフィードバックについて報告する。第 5 章ではまとめと今後の展望を述べる。

2. 中国語話者や韓国語話者のカタカナ外来語意識

2.1 陣内正敬（2008）による日本語学習者の外来語意識調査

2005 年に全国の日本語教育 198 機関に在籍する日本語学習者を対象にカタカナ語意識調査を

行い、479人(回収率24.2%、中国語49.7%、韓国・朝鮮語20.0%、英語4.2%、その他の言語26.1%)から回答を得た。そのうち、中国語話者、韓国・朝鮮語話者、その他の言語話者に特化して比較を行った結果を報告している。ここでは中国語話者と韓国・朝鮮語話者を中心に、整理してみた。

- (1) カタカナ文字の読み書き：文字や語彙面で距離がある中国語話者の方が表音文字のハンゲルを有する韓国語・朝鮮語話者よりも、困難度が高い。
- (2) 日常生活でのカタカナ語の困難度：程度差はあるが、全体の77.8%が困った経験がある。中国語話者(90%)の方が韓国語・朝鮮語話者(70%弱)よりも困難度が高い。
- (3) 習得・運用上の困難点：全体の過半数が挙げている困難点は、「発音の違い」(69.1%)、「意味推測不能」(55.7%)、「辞書不掲載」(50.7%)。中国語話者の困難点は「意味推測不能」(64.1%)、「発音の違い」(60.5%)、「辞書不掲載」(55.6%)、「表記の困難さ」(52.5%)。韓国・朝鮮語話者(71.6%)とそれ以外の言語話者(84.1%)の困難点は「発音の違い」。
- (4) 学習者が要望する到達目標：全体では「新聞やニュースが読める」(41.5%)、「日常生活で困らない」(37.4%)、「専門書が読める」(15.9%)。短期交換留学生は「生活」「新聞・ニュース」。院生や日本語学校の進学前予備教育生は「専門書」。
- (5) カタカナ語学習の必要性：全体の59.3%、中国語話者の71.8%、韓国語・朝鮮語話者の45.0%、それ以外の言語話者の52.3%が「もっときちんと教えてほしい」と要望している。
- (6) カタカナ語に対する評価：全体、中国語話者、韓国・朝鮮語話者の評価は「よくない」(37.0%、43.3%、36.0%)、「どちらでもない」(25.3%、20.6%、19.8%)、「よい」(29.0%、26.9%、30.6%)と否定的。それ以外の言語話者は「よい」(39.4%)、「どちらでもない」(29.4%)、「よくない」(26.6%)と肯定的な傾向がみられる。

上記の(1)～(6)から、多くの中国語話者や韓国・朝鮮語話者がカタカナ語の運用や学習に困難を感じていること、日本語におけるカタカナ語使用に否定的な評価をもっていることがわかる。なお、国立国語研究所(2004)の調査によると、77.7%の日本人が日常生活で困ったことが「ある」と回答している。その一方で、学習者たちは新聞やニュースの語彙、日常生活語彙、専門語彙などをもっと体系的に学びたいという要望をもっていることも事実である。陣内は、こうした結果を踏まえ、現在の日本語におけるカタカナ語の位置づけや使用実態を理解することが必要であるという意識を教師の中に醸成させる対策を講じなければ、時代遅れの文字や語彙の教育を行うだけで、カタカナ語の運用や学習に困難を感じている学習者の要望を満たすことはできないだろうと警鐘を鳴らしている。

2.2 入学直後のカタカナ外来語の意識調査（質的調査）

2.2.1 目的

本調査は、大学に入学した直後の日本語学習者のアカデミックジャパニーズコースの開始時におけるカタカナ外来語の運用や学習に対する意識を明らかにする目的で行った。

2.2.2 調査日、協力者、調査方法など

調査は、K大学の日本語コースの第1週目（2011年4月8日）に、1回生の日本語学習者（2つのクラス）を対象に無記名で自由記述してもらう質的方法で行った。回答者数43人（登録者70人中、出席者43人）からカタカナ外来語を並べただけでなんら記述がなかった回答者数10人を差し引き、計33人を分析の対象とした。有効回答率は77%であった。

2.2.3 分析と考察

本調査では、母語や日本語レベル（日本留学試験や日本語能力試験など）の記述は求めなかった。回答者は中国語話者と韓国語話者で、英語や他言語の話者はゼロであった。

以下、代表的な回答を引用しながら、学習者における外来語意識について考察していく。

- (1) 外来語は私にとって非常に難しいものなんです。書くことにしても、読むことにしても、難しいです。たとえ覚えても、なかなかうまく使えません。日本人と話すとき、たまに聞いたこともない、カタカナ語を耳にして、どうしようもなくととても困っています。カタカナ語を学んでもうまく使えません。

上の(1)は、カタカナ文字が覚えにくいことや、カタカナ外来語は「読む」「書く」「聞く」「運用」のいずれの面でもなじめないことを述べているが、大半の回答者がカタカナ文字やカタカナ語の学習や習得の困難さを訴えている。

- (2) 今、日本語の中では、カタカナ語はだんだん多くなり、日常会話の中に（以下、 は原文のママであることを示す）よく使っているようだ。例えば、今の日本人は「レストラン」という単語を利用する頻度は「飲食店」より多いかもしれない。カタカナ語はほとんど英語の単語から翻訳したけどフランス語とイタリア語も結構多い。それは、日本語の進歩だと思える人が多いかもしれない。しかし、現代の日本人はたぶんカタカナ語は使いすぎて、日本語の魂はだんだん失ってしまったと私はそう思っている。

上の(2)はカタカナ語の過剰使用によって日本語の魂が失われてしまったことを心配したものである。

(3) 日本に留学しようと思ったその一つの理由は、日本は中国と同じ漢字圏であります。でも、日本に来てから、自分があまいと思いました。日本は漢字だけでなく、ひらがな語とカタカナ語もあります。とくに外来語のカタカナ語はとても苦勞をしました。今思えば、「ヨーロッパ」という単語は一番時間をかかりました。私の一番苦手の小さい「ッ」と伸ばすの発音、その単語には全部ありました。単語を覚えれば、覚えるほど頭に入れる。そしてこの日本語の面白さもわかってきました。カタカナ語、言わば、外来語、外来語といっても、英語やフランス語、イタリア語とか圧倒的に多いです。そのこともわかってきました。特に、英語はその英語発音が分かれば、日本語で覚えるのは簡単になりました。難しいけど、グローバルな視点から、覚えていきます。

上の(3)からは、同じ漢字圏に属す中国語話者にとって日本語は学びやすい言語だろうと思って選択したが、難解なカタカナ語の存在に気づいたことや、促音や長音を含むカタカナ外来語は習得に時間を要していることがわかる。興味深い点は、発音がわかる英語語彙はカタカナ外来語としても覚えやすいと述べていることで、しかも、一つの語を覚えるのに英語・日本語・中国語の3言語が介在していることを「グローバルな視点から覚えている」という表現を使っていることである。

(4) カタカナ語に関して、日本語の中で一番難しいのはカタカナだと思います。それは、普段漢字、ひらがなを主に使っている私にとってなじみがないものだ。しかし、グローバル化が進むとともに、外来語専門用語、和式英語などカタカナ語が増え、カタカナはもはやかけてはならない存在である。大学に入っても、専門科目を勉強するときカタカナ語も頻繁に使われていて、大学生の私たちにとって、非常に重要な用語だと思います。

上の(4)から、和製英語やカタカナ専門用語は不可欠な存在であり、大学で専門科目を学ぶときに必要であることを理解していることがわかる。

(5) 私にとって、カタカナ語は日本語の中では欠かせないものだと思います。外国から伝わってきた文化です。漢字でうまく説明できない場合は適当なカタカナ語を使ったらよいと思います。今、経済が発展する一方で、言葉の使い方なども、国際的に変わっていくと考えられます。英語だけでなく、ドイツ語、ロシア語などいわゆる外来の文化は外来語で、つまりカタカナ語で表示されるべきだと思います。外国人の留学生の私たちにとって、英語さえ勉強したことがあれば、カタカナ語を勉強するのは問題にはならないし、勉強すればするほど、その中の面白さが分かってくるはずだと思います。

基本語化を考慮したカタカナ外来語の学習と教材開発（望月）

上の(5)からは、外来文化に関連するもの、とりわけ漢字では十分に説明できないものにはカタカナ外来語を使用すべきであり、英語がわかればカタカナ外来語の学習はさほど難しくなく、むしろ面白いという意識をもっていることがわかる。

- (6) 韓国のハングルで外来語（特に英語）を書くときには、全部ハングルで表記するので、この単語が外来語なのか、それとも母国語かについて、悩む時が少なからずあります。そのため、韓国では外来語が母語に吸収され、言葉が変な形に変わったりするのが少し問題だと思われまゝ。そういう面で、カタカナの使いは本当に優れていると思います。長音の使い方-er、-orなどのときに使うという規律さえ分かればいいと思いますが、外国人の立場としてカタカナを見て本当の意味がわかりにくい面もあります。

上の(6)からは、日本語では外来語をカタカナ表記するのが原則であるが、この和語や漢語との区別が一目瞭然であることを、どの語種に対してもハングル文字だけで表記する韓国語の話者の視点から便利な点として指摘している。長音などの表記の問題について、規則を知ることによって解決できると考えていることがわかる。その一方で、意味の推測の難しさを指摘している。

- (7) カタカナ語を見ると、日本人は本当に字を縮めることを好むと思いました。例えば、元々は remote control という英語の単語を「リモコン」と略することです。この単語以外にも多くの単語をこのように略する場面が多いと思います。それで、このようなカタカナの特徴を通じて、複雑なものをもっと簡単にする日本人の特性をわかるようになりました。

上の(7)からは、学習者がすでにカタカナ外来語は短縮化されやすいという特徴に気づいていることがわかる。

- (8) カタカナ語に関して、カタカナ語とは外国から来た言葉として、パソコン、エリートなどである。しかし、発音を日本で使いやすくしたため、そのカタカナ語を聞いた外国人は分かりにくいのが現実だ。しかも、日本人もそのカタカナ語を聞いて100%分かっているとは限らない。外国の英画を名前をそのまま持っていく英画の名前を日本人が聞いても、分からないという。そのマイナスなイメージが多いとも限らず、今、私が書いたマイナスやイメージというカタカナの方が日本語より使いやすく、定着しているので、カタカナ語は単に難しく分りにくい日本語とは言えないだろう。

上の(8)からは、カタカナ外来語のマイナス面について、外国人にとって原語と発音が異なるためにわかりにくい、日本人にとっても意味が分りにくい場合があることを、映画の題名

を例に挙げて指摘している。その一方で、「マイナス」や「イメージ」などの外来語は日本語の語彙として定着していて、むしろ使いやすいと感じていることがわかる。

本調査のデータは母語別に採取しておらず、中国語話者と韓国・朝鮮語話者間の比較ができないため、学習者全体の傾向ということになるが、2.1 で見た陣内正敬 (2008) の調査結果と同様に、中国語話者や韓国・朝鮮語話者がカタカナ文字やカタカナ外来語の学習や運用に困難を感じていること、原語とカタカナ外来語では意味や発音が異なる語彙が多いものの、英語の知識があればカタカナ外来語の学習に有利であると考えられる傾向があること、そして大学生活にカタカナ外来語の学習は必要不可欠であるという意識をもっていることなどが確認できた。

また、すでに現在の日本語におけるカタカナ語の位置づけや使用実態の理解が必要であるという意識を教師の中に醸成させる対策を講じる必要があるという陣内の指摘を取り上げたが、学習者に対しても日本社会におけるカタカナ外来語の位置づけや使用実態、外来語の特性、主として英語の日本語化の発音や表記の規則などの説明と練習を体系的に行うことが必要であることが本調査からも明らかになった。

3. カタカナ外来語の学習上の困難点再考

外国人学習者がカタカナ外来語を学習する際に困難を感じる原因を、以下に列挙する。

- (1) 「発音のズレ」：外国語をカタカナ語化するには日本語の音韻体系に従って変えてしまうが、一番顕著な変化は特殊拍を除くとほとんどの音節が CV パターン (開音節) になることである。日本語には5つの母音しかないので外国語の多くの母音を5つに収縮してしまう。子音の場合はさらに複雑である。

例：cut → カット、food → フード

- (2) 「表記のゆれ」：表記の原則と慣用表記の間にゆれがみられる。以下の例に見られるように、それぞれ2種類の表記がある。従って、どちらも原則では「メール」「メーン」となるはずであるが、「メール」と「メイル」では原則の「メール」が、「メーン」と「メイン」では慣用の「メイン」の方が使用頻度が高い。

例：mail → メール／メイル、main → メイン／メーン

- (3) 「意味のズレ」：和製英語あるいは英語以外の外来語にみられる一般的な現象で、外来語は限定された意味でしか使われないので、その多くが原語より狭い意味を表したり、原語にない意味を表したり、一つの語でも意味の拡大と縮小の両方がみられる語もあり、意味

基本語化を考慮したカタカナ外来語の学習と教材開発（望月）

の推測が難しい。例えば、日本人にとって「アウトレット」と言えば「モールの放出品」を思い浮かべるが、原語では「コンセントの差込口」であるなど、カタカナ外来語と原語間の意味のズレは枚挙にいとまがない。

- (4) 「和製英語」：和製英語か、英語由来の外来語か、あるいはまだ外来語化していない英語なのかの区別が難しい語がある。和製英語は日本で作り出されたもので、英語ではなく純然たる日本語語彙であるので外国では通じないのが普通である。日本人の英語学習者が和製英語をそれと認識しないで英語として使って非文を作り出すので、英語教育の世界では和製英語を問題視する人もある。柴崎・他（2007）では、4種類の和製英語のタイプを挙げている。(ア)「スマート /smart」のように和製英語と英語の持つ概念が異なる語、(イ)「ドライヤー /hair dryer」のように形は異なるが意味は同じ語、(ウ)「ナイター」のように英語には存在しない語、(エ)「ハローワーク」のように英単語を組み合わせた和製英語（hello + work）などである。

- (5) 「縮約語または短縮語」：日本語は長い単語や複合語は短縮する傾向があるが、それがカタカナ外来語にも適用される。そのため、原語や意味の推測が難しい語が存在する。

例：アマチュア→アマ、リモートコントロール→リモコン、パーソナルコンピュータ→パソコン、コンビニエンスストア→コンビニ

- (6) 「混種語」：2011年度ユーキャン新語・流行語大賞に、FIFA女子ワールドカップで優勝した「なでしこジャパン」が選ばれたが、日本語にはこのような「和語+外来語」というような混種語があり、また逆にカタカナ語が先頭に来るような「外来語+和語」といった混種語も多く、学習者にとって難しい語もある。

「和語+外来語」の例：生ビール、からオケ、紙コップ、胃カメラ

「外来語+和語」の例：アイロン台、サラ金、オフィス街

- (7) 「動詞化・ナ形容詞化」：外来語はその多くが名詞の形で借用されるので、外来語を動詞化する最も一般的な方法は「する」を付加する。

「外来語+する」の例：アピールする、サインする、プレゼントする、サービスする、
ゲットする、スタートする、カッティングする

また、外来語に「る」を付けて動詞化することもできる。

「外来語+る」の例：メモる、サボる、アじる、トラぶる

さらに、「形容詞+な」の形でナ形容詞化することもできる。

「ナ形容詞化」の例：オーバーな表現、オーソドックスな服

(8) 「非外来語のカタカナ表記」: 通常、洋語、和製英語、外国の国名・地名・人名、学術専門語、動植物名などはカタカナ表記が多い。しかし、カタカナは非常に生産的で、外来語(洋語)だけでなく、日常的に擬音語(ワンワン)、擬態語(キラキラ)、外国製日本語(ハラキリ)、感動詞(マア)、振り仮名、機関・施設名(スポーツセンター)などの表記にも使っている。また、難しい漢字の名詞なども、「薔薇」の代わりに「バラ」を使うことも多い。

上の(1)~(8)はすでに多くの研究者や教育実践者によって指摘されている困難点であるが、第1節で述べたカタカナ外来語の基本語化を考慮して、次の(9)も困難を感じさせる一因として含める必要がある。

(9) 「和語・漢語・外来語の類語」: 「エプロン」と「前掛け」のように具体名詞は比較的を使い分けが説明しやすい。しかし、基本語化した抽象的な外来語と既存語の使い分けが明らかでない語が存在する。共起語との関係が絡んでいると思われるが、まだ実態調査が進んでいる段階であり、当然、辞書にはこうした情報は掲載されていない。

例: ケース、トラブル、メリット、オープンな

4. 『日英対訳で学ぶ留学生のためのカタカナ語1』の開発と工夫

4.1 学習者および開発目的

カタカナ外来語は日本語の中できわめて生産的な現象を呈しているので、カタカナ語の学習を看過できないことは周知の事実であるが、上述した陣内正敬(2008)の指摘にもあるようにその割には本格的なカタカナ外来語の学習のためのテキストが少ない。そのニーズに応えるために『日英対訳で学ぶ留学生のためのカタカナ語1』(以下、『カタカナ語1』と呼ぶ)を企画した。これは、N1~N2レベルの自習用教材で、想定する主たる使用者は大学の初年次教育のJSL日本語学習者である。大学生活や教養・専門科目の勉学に役立つ基本的な汎用カタカナ外来語の知識とその運用能力を高めることを目的に据えている。

4.2 語彙の選定と本書の構成

1コースを15週として、1章を1週のペースで自習を行って13週でカバーできるように構成されている。第1章では「カタカナ語の基礎知識」について概観し、第2章~第11章で300語のカタカナ外来語を、さらに第12章では80語のローマ字略語を、そして付録1の「国立国語研究所によるカタカナ語言い換えリスト」では140語を学習できる。従って、カタカナ外来語に限った総数は、単純計算で440語ということになるが、140語中の21語はすでに300語に含

まれているので、300語にこれを差し引いた119語を加算すると総数は419語となる。さらに合成語数を加えると全体の総数は1,050語となるが、ここでは300語を選択した基本的な考え方について述べる。

次のような先行研究や資料を参考にして、3種類以上の資料に立項あるいは見出し語として採り上げているもので、質問紙調査によって確認された既習語彙や、一語一義的な語彙で辞書を引けば簡単に問題が解決し運用もさほど困難でない語彙を取り除いた、汎用度の高い語彙をアカデミックジャパニーズの基本的な初めの300語として取り出した。

- ① 『日本語能力試験出題基準【改訂版】』（国際交流基金・日本国際教育協会、2002）
- ② 5冊の日本語初級教科書の比較分析（菅生早千江、2002）
- ③ 『みんなの日本語』初級ⅠとⅡ（スリーエーネットワーク）
- ④ カタカナ語基本語彙550語と最重要語の選定（井上道雄、2004, 2008）
- ⑤ 中上級用アカデミックジャパニーズのカタカナ語テキスト（佐々木瑞枝監修、2001）
- ⑥ 初年次学部留学生用の新聞外来語集（福井七子、1998, 2005）
- ⑦ 中上級用分野別カタカナ語テキスト（島野節子他、2008）
- ⑧ 超級時事カタカナ語テキスト（陣内正敬／森本郁代、2010）
- ⑨ 中上級～上級用日本語テキスト、日本語能力試験1～2級問題集など
- ⑩ 『最新カタカナ語辞典第二版』講談社編
- ⑪ 増加傾向にある外来語701語（金愛蘭、2011 付表2）

選定作業の準備として上掲の①④⑤⑥⑧を比較したが、基本語化の視点からも分析するために新たに⑪を加えて、対照表を作成した。

第2章で述べたようなカタカナ外来語学習の困難点を考慮して、各見出し語には原語・アクセント・意味・類義語・対義語・合成語・連語（共起語）を示した。学習者からのフィードバックで要望が多かった英文対訳を用例に併記し、和製英語との区別がつくようにするとともに英語の勉強にも役立つように配慮した。また、自習教材であるため、3級以上の語彙には振り仮名を付けた。各章末には豊富な練習問題を用意し、毎授業時の最初の10分間は授業支援型e-learningシステムCEASの教材作成中の自動採点が可能な記号入力式テストを活用し、変化を観察する方法を採用した。

4.3 フィードバック

4.3.1 直後テスト事後テストの比較

2011年春学期のコース最終日（7月19日）に直後テストを、2か月後の秋学期のコースの第2週目（9月27日）に事後テストを実施した。いずれも記号入力式テストを紙媒体で行った。

25人のうち、事後テストを受けなかった1人を除き、24人のデータを比較した。直後テストと事後テストのそれぞれの平均値 = 80.0、分散 = 87.4、標準偏差 = 9.3 と平均値 = 60.4、分散 = 261.7、標準偏差 = 16.2 となり、定着率が低く、ばらつきが大きいことがわかった。

4.3.2 自由記述式アンケート調査

次のことが自由記述式アンケートから明らかになった。

一つは、夏季休暇中に母国に帰国したため、その間まったく日本語環境になかった学習者が少なくないこと、基本的な外来語を体系的に学んでいない学習者が少なくないこと、知識としてはわかってもカタカナ外来語を実際に運用しようとしてもよくわからないことなどである。

5. まとめと展望

言語弱者や情報弱者を増やさない、つくらないためには聞き手や読み手に優しい日本語を使用することが求められる。カタカナ外来語はコミュニケーション不全を起こす原因の一つとして批判の対象となることがあるが、既存語で言い換えが可能な場合とそうでない場合があり、今後の調査研究によって実際の使用が明らかになっていくものと思われる。日本語教育においては、教師自身が実情を知ることが必要であるが、同時に、学習者自身に対してもその位置づけや実態を伝えることが、学習上の不安や運用上の過剰使用や過少使用を回避することにつながるものと思われる。

日本語教育においてもまだ体系的には教えられておらず、効果的な教材作成もまだ開発途上にあるが、近年、発音や表記、意味推測などを訓練するための e-learning 教材なども開発されつつある。

筆者らの開発したアカデミックジャパニーズ教育用の教材は、すでに基本語彙を習得していることを前提にしているが、本研究からさらに2つの方向で開発することが可能であるという示唆を得た。一つは、基本語化していると思われる10～20くらいの語彙を取り上げて、丁寧かつ詳細な説明と練習問題を備えた教材を作成する方向で、もう一つはもっと生活に密着した基本語彙を増やす方向である。すでに、後者については基本語彙550の認知率や使用率の調査を終えているが、紙幅の都合で本研究では報告できなかった。近日、機会を改めて報告したいと考えている。

謝辞 本研究は科学研究費による学習者コーパス研究（課題番号：19520529、研究代表者：望月通子）の一部として行ったものである。

基本語化を考慮したカタカナ外来語の学習と教材開発（望月）

表1 「望月編者2011」300語の対照表(1)

番号	カタカナ外来語	日能検改定版	井上2005基本550語	みんなの初I II	金、2010 701語	分野別2010 400語	よく使う 2001-358
1	アイディア						
2	アイデンティティ	②	○			○	○
3	アウトドア	②アウト		△			
4	アクション		○				
5	アクセス		○				
6	アップ	①	○				○
7	アドバイス		○				○
8	アドヴァンス	③アナウンサー	○				○
9	アドバウト		○				○
10	アビリティ		○				○
11	アローチ	①		○			○
12	アポイント			○			○
12	アポイントメント			○			○
12	アホ						○
13	アマチュア	①	○				○
14	アマ		○				○
14	アルバイト	③	○				○
14	バイト						○
15	アレンジ		○				○
16	アレンジ		○				○
17	アンケート	①		○			○
18	アンダーライン			○			○
19	アンチ						○
20	アンテナ	②	○				○
21	イエスマン			○			○
22	イコール	②		○			○
23	イデオロギ-			○			○
24	イデオロギ-			○			○
25	イベント	②		○			○
26	イメージ	②	○				○
27	イラスト			○			○
27	イラストレーション			○			○
28	インデュ-	②		○			○
29	インパクト			○			○
30	インフォメーション	①		○+センター			○
31	インフラ			○			○
32	インフレ	①	○				○
32	インフレーション			○			○
33	ウエイト			○ウエート			○
34	エキスパート			○			○
35	エイズ			○			○
35	エイズ			○			○
36	エコ			○			○
36	エコ			○			○
36	エコ			○			○
37	エスカレーター	③エスカレーター	○	○エスカレーター			○
38	エチケット	②					○
39	エッセイ	②					○
40	エネルギ-			○			○
41	エピソード		○				○
42	エラー			○			○
43	エリア			○			○
44	エリート			○			○
45	エレガント	①		○			○
46	エンジニア	①		○			○
47	エンジョイ			○			○
48	エントリー			○			○
49	オートデスク			○			○

表1 「望月編者2011」300語の対照表(2)

番号	カタカナ外来語	日能検改定版	井上2005基本550語	みんなの初I II	金、2010 701語	分野別2010 400語	よく使う 2001-358
50	オーダー		○			○	○
51	オーダー		○				○
52	オーダー	③、①する					○
53	オーダー	①					○
54	オブ		○				○
55	オブジェクト						○
56	オブジェクト	②					○
57	オブジェクト						○
58	オブジェクト	①					○
59	オブジェクト						○
60	オブジェクト						○
61	オブジェクト						○
62	カード						○+マン
63	カード	①①①ブック	○				○
64	カウンティング		○				○
65	カウンティング		○				○
66	カウンティング						○
67	カウンティング						○
68	カット	①		○			○
69	カット	①		○			○
70	カバ-	②		○			○
71	カリキュラム			○			○
72	カルチャー			○			○
73	カー			○			○
74	カー			○			○
75	キャッシュ	①		○カード			○
76	キャッシュ			○			○
77	キャッシュ			○			○
78	キャッシュ			○			○
79	キャッシュ	①		○			○
80	キャッシュ			○			○
81	クラス	④		○			○
82	クリア			○			○
83	クリア			○			○
84	クリア			○			○
85	クリア			○			○
86	クリア			○			○
87	クリア			○			○
88	クリア	②②①適合	○				○
89	クリア			○			○
90	クリア			○			○
91	クリア	②		○			○
92	クリア	②		○			○
93	クリア			○			○
94	クリア	②		○			○
95	クリア	①		○			○
96	クリア	②		○			○
97	クリア	○		○			○
98	クリア			○			○
99	クリア	④		○			○
100	クリア	①		○			○
101	クリア	②		○			○
102	クリア			○			○
103	クリア	①		○			○
104	クリア			○			○
105	クリア	②		○			○
106	クリア			○			○

表1 「望月編者2011」300語の対照表(3)

番号	カタカナ外来語	日能修改定版	井上2005基本550	みんなの初I II	金 2010 701語	分野別2010 400語	よく使う2001 358語
107	コンセンサス				○		
108	コンタクト	①レンズ					○
109	コンフィジョン				○		○
110	コントラスト	①					○
111	サーガル	②			○		○
112	サービス	②	○				○
113	サイズ	①	○				○
114	サイド				○		○
115	サボット				○		○
116	サボネ	①					○
117	サンブル	②					○
118	シーズン	②			○		○
119	シェア				○		○
120	システム	①	○				○
121	ジャーナリスト	②	○				○
122	ジャンル	①			○		○
123	シヨック	①			○		○
124	シリーズ	②	○				○
125	シレンマ				○		○
126	シンボジウム				○		○
127	シボル				○		○
127	スケール				○		○
128	スケジュール	②	○				○
129	スター	②	○				○
130	スタイル	②			○		○
131	スタッフ				○		○
132	スタンス				○		○
133	ステツク	②					○
134	ストップ	②	○				○
135	ストレート				○		○
136	ストレス	①	○				○
137	スピード	②			○		○
138	スペース	①			○		○
139	スムーズ				○		○
140	スライド	②					○
141	スリム				○		○
142	スローガン				○		○
143	セキュリティ				○		○
144	セカハラ				○		○
145	セツト	②	○				○
146	セミ	②			○		○
147	セミナー				○		○
148	センス	①	○				○
149	ソフト	③	○				○
150	ターゲツト				○		○
151	タイトル	①			○		○
152	タイミツク				○		○
153	タイプ	③	○				○
154	タイムシヅ	①			○		○
155	ダイヤ	②			○		○
156	ダウン	①			○		○
157	ダウン				○		○
158	チーム	②④ワーク	○				○
159	チャェック	③	○				○
160	チャレンジ	○	○				○
161	チャンス	②	○				○

表1 「望月編者2011」300語の対照表(4)

番号	カタカナ外来語	日能修改定版	井上2005基本550	みんなの初I II	金 2010 701語	分野別2010 400語	よく使う 2001 358語
162	デー々	①		○			○
163	デー々	②					○
164	テキェスト	③					○
165	テグニツク						○
166	テシタル						○
167	テモ	②					○
167	テモストレシヨシ	①					○
168	テリカエト						○
169	テンボ	②					○
170	トップ	②	○				○
171	ドライ						○
172	ドライ	①	○				○
173	トラブル	①					○
174	トゥーズ						○
175	ニューアンス	①	○				○
176	ネツク						○
176	ネツク		○			○+ワーク	○+ワーク
177	ネット						○
177	インタ一ネット						○
178	ノウハウ						○
179	ノルマ						○
180	ノー						○
181	ノードナー						○
182	ノードル						○
183	ノイオニア						○
184	ノイライト						○
185	ノカラン	②	○				○
186	ノツク						○
187	ノニツク						○
188	ノネルチイスクシヨシ						○
189	ノフォ一マンス						○
190	ノランス	②					○
191	ノワー						○
192	ノツク	①					○
193	ノツク	②					○
194	ノツク						○
195	ノツク						○
196	ノツク						○
196	ノツク						○
197	ノツク						○
198	ノツク	①					○
199	ノツク						○
200	ノツク						○
201	ノツク						○
202	ノツク	①					○
203	ノツク						○
204	ノツク	①					○
205	ノツク	①					○
206	ノツク						○
207	ノツク						○
208	ノツク						○
209	ノツク						○
210	ノツク	②					○
211	ノツク	②					○
212	ノツク	②					○
213	ノツク	②					○
214	ノツク	②					○
215	ノツク						○

基本語化を考慮したカタカナ外来語の学習と教材開発（望月）

表1 「望月編者2011」300語の対照表(6)

番号	カタカナ外来語	日能研改定版	井上2005基本550	みんなの初1,II	金2010701語	分野別2010400語	よく使う2001358語
272	リアクション						
273	リアル						
274	リーダー	①					
275	リード	①					
276	リサーチ						
277	リサイクル						
278	リスト						
279	リスト						
280	リストアップ						
281	リスト						
282	リハビリ						
282	リハビリテーション						
283	リラックス						
284	リンク						
285	ルーズ	①					
286	ルート						
287	ルール	①					
288	リアリゼーション	②					
289	レンジ(スター)	③					
290	レンジャー	②					
291	レジメ						
291	レジメ						
292	レベル	②					
293	レポート	③					
293	レポート						
294	ローン						
295	ロス	②					
296	ロビー	①					
297	ロマン	①					
297	ロマンチック						
298	ロング						
298	ロング						
299	ワーケーション						
300	ワンマン						

表1 「望月編者2011」300語の対照表(6)

番号	カタカナ外来語	日能研改定版	井上2005基本550	みんなの初1,II	金2010701語	分野別2010400語	よく使う2001358語
216	プレー	②					
217	プレーキ	③					
218	プレゼント						
219	プレジデント						
220	プレゼント						
221	プロ	②					
222	プログラム	②					
223	プロジェクト						
224	プロセス						
225	ヘア	①					
226	ヘアス	①					
227	ヘアス						
228	ヘアス						
229	ヘアス	①					
230	ベター						
231	ベテラン	②					
232	ベナルティ						
233	ベンチャー						
234	ポイント	①					
235	ポーズ	①					
236	ホーム	②					
237	(ブライド)ホーム						
238	ホスター	②					
239	ホスト	④					
240	ホランティア						
241	マイ	①					
242	マイナス	②					
243	マイリテイ						
244	マスコミ	①					
245	マニア						
246	マニユアル						
247	ミス	①					
248	ミニ						
249	ムード	①					
250	メーカー	①					
251	メイン						
252	メカニクス						
253	メッセー	①					
254	メテア	①					
255	メモ	②					
256	メリット						
257	メンバ	②					
258	モード						
259	モザル	②					
260	モーター	①					
261	モラル						
262	ユーザ						
263	ユーモア	②					
264	ユニーク	①					
265	ライバル	①					
266	ライブ						
267	ライフスタイル						
268	ライフライン						
269	ライフワーク						
270	ラッシュ	②					
271	ランク、ランキング						

参考文献

- 福井七子 (1998、2005) 『新聞外来語集』 私家版
- 橋本和佳 (2003) 「40年間の新聞投書欄に見る外来語の定着」『同志社国文学』59、89-102
- 橋本和佳 (2010) 『現代日本語における外来語の量的推移に関する研究』ひつじ書房
- 井上道雄 (2004、2008) 『カタカナ語 (外来語) 基本語彙 550語からの最重要語の選定とその妥当性』
- 石綿敏雄 (1991) 「外来語と漢語・外来語の語源」『日本語教育学会』
- 陣内正敬 (2008) 「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」『言語と文化』11、47-60 関西学院大学
- 陣内正敬・森本郁代 (2010) 『時事外来語で日本理解：大学からの超級カタカナ語』関西学院大学出版会
- 金愛蘭 (2006a) 「外来語『トラブル』の基本語化——20世紀後半の新聞記事における——」『日本語の研究』2-2 (旧『国語学』通巻225号)、日本語学会18-33
- 金愛蘭 (2006b) 「新聞の基本外来語『ケース』の意味・用法——類義語『事例』『例』『場合』との比較——」『計量国語学』25-4 計量国語学会
- 金愛蘭 (2011) 『20世紀後半の新聞記事における外来語の基本語化』阪大日本語研究 別冊3 大阪大学大学院文学研究科 日本語学講座
- 講談社編 (2000) 『最新カタカナ語辞典 第二版』講談社
- 国立国語研究所 (2004) 『外来語に関する意識 (全国調査)』国立国語研究所
- 国立国語研究所 (2005) 『現代雑誌の語彙調査——1994年発行70誌』国立国語研究所
- 国立国語研究所「外来語」委員会編 (2006) 『わかりやすく伝える外来語言い換え手引き』ぎょうせい
- 国立国語研究所「病院の言葉」委員会編 (2009) 『病院の言葉をわかりやすく——工夫の提案』勁草書房
- 国際交流基金 (2002) 『日本語能力試験出題基準【改訂版】』日本国際教育協会
- 文部科学省 (2001) 「外来語の表記」内閣告示
- カタカナ表記検討ワーキンググループ (2008) 「外来語 (カタカナ) 表記ガイドライン」テクニカルコミュニケーション協会
- 宮田公治 (2007) 「外来語『メリット』とその類義語の意味比較——新聞を資料として——」『公共媒体における外来語——外来語言い換え提案の調査資料と研究』402-409 国立国語研究所報告126
- 望月通子 (2011) 『日本語対訳で学ぶ留学生のためのカタカナ語1』関西大学出版
- 佐々木瑞枝監修 (2001) 『よく使うカタカナ語』アルタ
- 柴崎秀子・玉岡賀津雄・高取由紀 (2007) 「アメリカ人は和製英語をどのくらい理解できるか——英語母語話者の和製英語の知識と意味推測に関する調査——」『日本語科学』21、89-110
- 島野節子・他 (2008) 『中上級用分野別カタカナ語テキスト』
- 菅生早千江 (2002) 「初級教科書におけるカタカナ表記に関する一考察——5冊の日本語初級教科書を比較して」『AJALT 日本語研究誌 ([1])』111-127
- 『みんなの日本語』初級IとII スリーエーネットワーク